

# 牛伝染性リンパ腫※

※令和2年7月1日より牛白血病から名称が変更されました。



## 牛伝染性リンパ腫(牛白血病)とは？

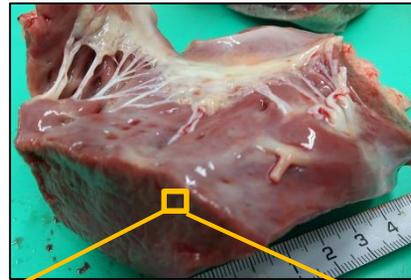
- ◆白血球が腫瘍(ガン)化する、人のリンパ腫に類似した疾病で、家畜伝染病予防法により届出伝染病に指定されています。
- ◆本疾病は、牛伝染性リンパ腫(牛白血病)ウイルスによって引き起こされる『地方病性』と、原因不明の『散発性』の二つに分けられます。
- ◆『散発性』は発生年齢や病型によって、①子牛型(6か月齢未満)②胸腺型(6か月～2歳未満)③皮膚型(2～3歳)に分類されます。

### 【症状】

『地方病性』体表リンパ節の腫脹、削瘦、元気消失、眼球突出、下痢、泌乳量減少など  
 『散発性』①地方病性に類似②胸腺の腫脹③全身の皮膚にイボの形成

### 【と畜検査でみつける異常】

- ・全身のリンパ節の腫脹
- ・肝臓、心臓等の腫瘍化(白色病変)
- ・脾臓の腫脹
- ・腫瘍の形成 等



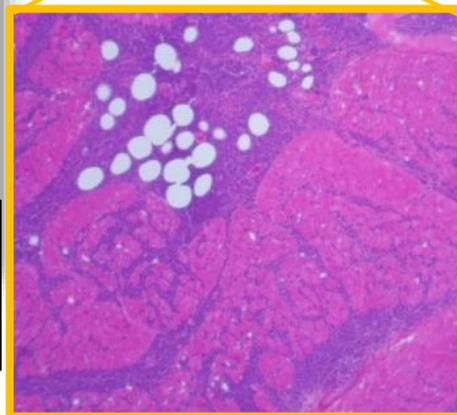
#### ←心臓

肉眼的には異常がありませんでしたが、顕微鏡検査で腫瘍増殖が確認されました。



牛伝染性リンパ腫の肝臓↑  
(白色部が腫瘍化した部位)

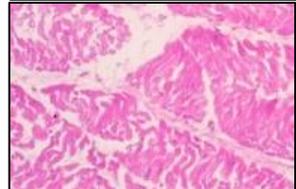
正常な肝臓



#### ←心臓(顕微鏡40倍)

心筋(ピンク色)の間に腫瘍細胞(紫色)が浸潤している像が観察されます。

↓正常な心臓



### 【滋賀県食肉衛生検査所の廃棄基準】

- ・と畜検査で牛伝染性リンパ腫が疑われた場合に保留し、顕微鏡を用いた精密検査を実施。
- ・顕微鏡検査において、複数の臓器・リンパ節で腫瘍細胞の増殖が認められた場合に全部廃棄とする。

### 【当所での発生状況 年度別廃棄頭数】

平成27年度から令和元年度の5年間では、全部廃棄となった牛の中で牛伝染性リンパ腫を原因とするものが半数程度を占めていました。

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 (令和元年度)
牛白血病頭数/ 全廃棄頭数 (全廃棄中%)	9/15 (60%)	6/14 (42.9%)	7/12 (58.3%)	14/27 (51.9%)	13/24 (54.2%)